

広島県高等学校体育連盟主催大会（地区大会も含む）

新型コロナウイルス感染拡大予防

ガイドライン

（令和2年8月21日版）



広島県高等学校体育連盟

■ 高体連主催大会（地区大会も含む）開催・継続の基準について

- 1 県内及び開催地域の感染状況等を勘案して、安全な開催ができない場合※は、健康福祉局、教育委員会及び専門家と連携し、大会を中止、縮小等について判断する。
- 2 各競技において、大会前日までに、出場者数が参加申込人数の8割を下回った場合、再度感染予防策等、安全面を確認した上で、主催者は大会継続の可否について、検討する。

※ 安全な開催ができない場合…県（各市町等）の警戒レベルが上がった場合（レベル2が目安）や、開催地域等での感染が拡大（会場の所在市町及びその隣接する市町などを想定）している場合、大会中に大会参加者や関係者の感染者が複数確認（クラスターが発生した場合を想定）された場合など

■ 各校の大会参加の基本的な考え方

大会参加の可否は、生徒、教職員を含めた学校や県内や大会開催地域の感染状況等を勘案し、学校長が判断し責任を持つ。その際、感染への不安等で参加を見送る生徒及び保護者の意思が尊重されること。

- 1 本人・保護者が大会要項やガイドライン等を確認し、同意の上、大会に参加する。当日体調不良(※1)があった場合は参加できない。また、PCR検査を受ける予定、又はPCR検査を受けた者は、結果が判明するまでは、大会に参加できない。
(※1) 体調不良…検温の結果37.5℃以上の場合、体調が良くない場合（発熱、咳・咽頭痛、味覚・臭覚障害などの症状がある場合）は大会会場への来場を自粛する。

- 2 感染者及び濃厚接触者の生徒及び顧問等は、療養及び自宅待機等の期間(※2)後、更にその日数分を安全な大会参加に向けた回復(練習)期間として充て、その間は大会に参加できない。ただし、顧問等の回復期間については、その限りではない。

(※2) 療養及び自宅待機等の期間…保健所等の指示に従い行動すること。なお、今後、知見の集積により逐次見直しがあることに御留意ください。

- ・濃厚接触者は感染者と最後に接触した日から2週間自宅待機の健康観察期間とする。ただし、回復(練習)期間については、判定を受けた次の日からの日数分を充てる。
- ・感染者については、有症状者は発症後、無症状者は検体採取後から10日間(有症状者は、かつ症状軽快から3日経過が要)を療養期間とする。また、回復期間については、その同日数分を充てる。ただし、PCR検査2回連続陰性確認で退院可とする基準より療養期間が短縮される場合もある。

(例) 濃厚接触者の場合、感染者との最後の接触から5日目に濃厚接触の判定を受けた時、残り9日間の自宅待機が必要となり、更に同日数分(9日間)の回復期間後に大会参加を可とする。
(例) 感染者の場合、症状軽快後にPCR検査2回陰性となった日が、発症して8日目だった時は、更に8日間の回復期間後に大会参加を可とする。

- 3 大会参加者及び役員等は、大会2週間前から大会当日まで体調の記録を行い、県高等学校体育連盟に提出することとし、大会終了後2週間以内に感染の可能性が認められた場合は、速やかに県高等学校体育連盟に報告すること。

(参考)

● 感染状況レベルの概要

感染状況レベルは、新規感染者数、倍加時間、感染経路不明感染者数の割合、PCR検査体制、医療機関での患者受入状況、軽症者等宿泊療養施設の確保状況等を考慮し、専門家により決められます。レベルによって、外出自粛要請の対象範囲や、施設の使用制限の要請対象が変わる。

感染拡大防止に向けたフェーズ毎の主な対応

区分	徹底した行動変更の要請によるまん延防止			新しい生活様式による感染拡大の予防
	レベル4	レベル3	レベル2	
まん延の状況	まん延の状況が厳しい	疫学的状況		新規感染者数が顕著的
	病状に比した迅速な医療提供困難	医療状況		病状に比した迅速な医療提供可能
まん延の管理への要請	<ul style="list-style-type: none"> 人との接触機会を自粛要請 全員の外出自粛 	<ul style="list-style-type: none"> 人との接触機会を自粛要請 全員の外出自粛 	<ul style="list-style-type: none"> 週末の外出自粛 	
	他地域との往來自粛			
	3密回避、体調管理、手洗い・咳エチケット、人との距離確保			
	屋外における少人数以上のイベントの自粛		屋外、屋内における少人数以上のイベントの自粛	
事業者・企業への要請	<ul style="list-style-type: none"> 出勤者数削減(Web会議、テレワークの活用、不要な会議・出張の中止等) 感染防止対策(換気対策、消毒間隔確保、換気ファン分散等) 			<ul style="list-style-type: none"> Web会議、テレワーク、時差出勤等の積極的活用
	3密回避、体調管理、手洗い・咳エチケット、人との距離確保(各会場にあった取組)			
	施設等の休業要請			

生徒・保護者の皆様へ

大会出場校・出場生徒等の大会参加における確認事項

1 健康管理・行動把握について

- (1) 試合予定日の2週間前からの健康管理、行動履歴の記録を徹底してください。感染の発症や疑いが生じたり、濃厚接触者の対象となったりした場合、これらをもとに感染防止に向けた対応をお願いすることがあります。
- (2) 「体調を偽って報告」、「感染に関する情報を隠す」等が絶対にならないよう、自身の体調について素直に申し出るよう適正な対応をしてください。後に感染や感染疑いが発覚することによる大会の中断や中止等、多くの方に多大な迷惑をかける結果にもなりかねません。

2 大会参加の可否等に起因する誹謗・中傷、強要・いじめ等の根絶について

- (1) 新型コロナウイルス感染症に感染した人への誹謗中傷や不当な差別、偏見、いじめ等は決して許されるものではありません。こうしたことが行われると、感染を疑われる症状が出て、差別をおそれ受診をためらうことにつながり、結果的に感染が拡大するという負の連鎖も引き起こしかねません。
- (2) 本大会は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じた上での開催となりますが、生徒が参加を判断する際には、高齢者や基礎疾患のある方と同居している等、各家庭によって考慮すべき事情があることを考えた行動を取ることが大切です。
そのため、大会参加については、あくまで本人・保護者の意思が最大限尊重されることが重要です。本人の意思に反して参加を強要されたり、不参加が原因でいじめが生じたりすることは絶対にあってはなりません。
- (3) 十分な感染予防をしても感染したり濃厚接触者になったりすることで、当該部が大会に参加できなくなることも考えられます。感染のリスクは誰にでもあるものです。その生徒に対する誹謗・中傷が起きることがないように、一人ひとりがお互いを思いやる気持ちをもって冷静に行動することが重要です。
- (4) 当該部のみならず大会役員・関係者等の感染が広がる恐れが生じた場合、大会中止の判断をします。この場合、当該感染者の責任は一切無いことをご理解ください。

広島県高等学校体育連盟主催大会（県大会・地区大会） 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

本ガイドラインは、「学校の新しい生活様式」（文部科学省）、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）及び日本高等学校野球連盟が作成した「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」等を踏まえて、現段階で得られている知見等に基づいて作成しています。

今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により逐次見直すことがあり得ることに御留意ください。

1 大会実施に当たっての基本的考え方について

大会の実施に当たっては、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」（文部科学省）及び令和2年5月22日教育長通知「県立学校における学校再開について」を踏まえ、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）、「スポーツイベント再開に向けた感染予防ガイドライン」（公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）、「都道府県独自の試合・大会新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」（公益財団法人日本高等学校野球連盟）、及び各中央競技団体によるガイドライン等を参考に、「広島県新型コロナウイルス感染症対策専門員会議」の助言を得て、次の大会実施に当たっての基本的な考え方に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じることとする。

【大会実施に当たっての基本的な考え方】

- (1) 感染源を絶つ
- (2) 感染防止の3つの基本
○ 身体的距離の確保 ○ マスクの着用 ○ 手洗いの徹底
- (3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場所）の回避
- (4) 安全な活動環境等の確保

2 大会実施時の感染防止策について

(1) 感染源を絶つ

- 主催者は、生徒や引率者及び役員・関係者等が検温の結果 37.5℃以上の場合、体調が良くない場合（発熱、咳・咽頭痛、味覚・臭覚障害などの症状がある場合）は、大会に参加させないことを徹底する。
- 引率者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食時、解散時等、こまめに、生徒の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時まで生徒の健康観察を徹底する。
- 主催者及び引率者等は、大会中に、生徒等の体調不良を確認した場合、大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し、当該生徒の体調を確認するとともに、安全に帰宅させるなどの対策を講じる。

(2) 感染防止の3つの基本

ア 身体的距離の確保

- 開会式等は実施しない。また、抽選会は、必要最小限の人数によって代理抽選とする。
- 主催者は、引率者会議等を実施する場合、人と人との間隔が、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、椅子の配置を広くするなどの工夫をする。

- 引率者等は、集合時、待機中、休憩中及び食事中などにおいて、生徒同士の間隔が、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くように指導する。
- 主催者、指導者等は、対戦相手や審判等との握手、仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチなどの実施を制限する。

イ マスクの着用

- 主催者は、生徒、引率者等及び大会関係者に、マスク等を準備させ、大会中は、競技等実施時及び食事中等を除いて、基本的にマスク等を着用し、咳エチケットを徹底するよう指示をする。ただし、活動中や気候の状況等より、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう生徒に指導する。
- マスク等を着用して運動を行う場合には、同じ運動であっても、体へ高い負荷がかかり、低酸素症や熱中症などのリスクが高まるため、主催者や引率者等は、会場の気温や湿度に注意しながら、生徒の健康観察を行うとともに、こまめに給水をさせる。その際、給水用のコップ等を共用させない。

ウ 手洗い等の徹底

- 主催者は、生徒、引率者等及び大会関係者が、こまめに手洗いを行えるよう、利用する施設と連携し、手洗い場に十分な量の石けん等を設置するとともに、場内アナウンス等で、生徒や引率者等に手洗いを促す。
- 主催者は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食前後、解散時等、こまめに、流水と石けんを手洗いを行うよう、生徒に丁寧な手洗いを促す。

(3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場所）の回避

- 原則、無観客試合とするが、一定の条件を満たした競技会場において、保護者等が入場できることとする（競技専門部ごとに別途示す）。なお、試合会場への入場は、出場選手として登録された生徒、引率者及び大会関係者のみとし、出場選手として登録されていない部員やマネージャーの入場については、利用する会場や施設の状況、各専門部の加盟生徒数等を考慮し各競技専門部が判断する。
- 主催者は、試合会場を複数設けるなどし、生徒、引率者等の会場への移動が短縮できるよう工夫する。
- チームでまとまって会場へ移動する場合、引率者等は、バス等の車内が、密閉空間にならないよう、運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。
- 主催者は、更衣室で生徒が密集しないよう、一度に利用できる人数を制限し明示する。また、更衣室内に生徒同士の間隔ができるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう目印テープを貼付するとともに、更衣室の換気扇を常時運転したり、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、会場内で人が密集しないよう、一度に会場に入れる人数や学校数等を制限するなどの工夫をする。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、定期的に会場のドアや窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うなどの工夫をする。その際、試合会場の窓等の開閉が困難な場合は、利用する施設と連携し、換気施設を適切に運転する。この場合においても、定期的に会場の入口等を開け換気を行うなどの工夫をする。
- 主催者及び引率者等は、試合会場のベンチや食事をする場所について、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、生徒同士の間隔を取らせ、対面をさけ、会話は控えるよう指導する。

(4) 安全な活動環境等の確保

- 主催者は、各校の生徒及び引率者等の2週間分の体調を記録した体調記録表（別紙1）の記録を求め、健康管理を徹底する。
- 主催者は、大会当日受付時等に、学校同行者体調記録表（別紙2）の提出を求め、生徒や引率者等の体調を確認するとともに、大会中、生徒や引率者等に体調不良がある場合は、大会本部に申し出るよう場内アナウンス等で確認を促す。
- 主催者は、学校同行者体調記録表（別紙2）に記載された者以外の来場者に対し、来場者体調記録用紙（別紙3）で、次の内容について確認する。

氏名・年齢・住所・連絡先（電話番号）・検温した体温・来場前2週間におけるア：平熱を越える発熱，イ：咳や喉の痛みなど風邪の症状，ウ：だるさ（倦怠感），息苦しさ（呼吸困難），エ：味覚や嗅覚の異常，オ：過去14日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域などへの渡航歴及び当該在住者との濃厚接触の有無の確認と，来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は，主催者に対して速やかに報告すること。
- 試合に関わる全ての者（大会役員，審判，指導者，部員）は，試合が開始される2週間前からの行動を，行動履歴書（別紙4）に記録する。
- 主催者は，参加校に対し大会の主旨，感染拡大予防ガイドラインを周知徹底する。顧問等は，大会に参加する生徒及び保護者に対し，参加に当たっての注意事項等を事前に説明し，同意書（別紙5）を提出させる。その際，大会申込期日までに定期健康診断の実施が行われていない学校の生徒については，各自で健康診断を受診するなど保護者の責任のもと健康上問題がないことを確認したうえで参加させる。
- 社会体育施設を利用して大会を実施する場合は，「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）に則り運営する施設を選定し，感染拡大予防対策について，事前に施設と打合せを行う。また，学校施設を利用して大会を実施する場合は，令和2年5月22日付け教育長通知「県立学校における学校再開について」等に基づき，感染拡大予防対策について，事前に，会場となる学校の教職員と打合せを行う。
- 主催者及び引率者等は，別紙「代替大会実施時の感染防止対策チェックリスト」例を参考に，各部活動の実態や各競技特性に応じた，適切な感染防止策を講じる。

3 各競技特性に応じた感染防止策

	競技	ページ
1	陸上競技	6～9
2	水泳	9～10
3	体操・新体操	10
4	ボート	10
5	ヨット	11
6	登山	11
7	スキー	11
8	バスケットボール	11～12
9	ハンドボール	12
10	バレーボール	13
11	ソフトテニス	13～14
12	テニス	14
13	卓球	14
14	サッカー	15
15	ラグビー	16
16	ソフトボール	16～17
17	バドミントン	17

	競技	ページ
18	柔道	17
19	剣道	18
20	相撲	18
21	弓道	19
22	レスリング	19
23	ボクシング	19～20
24	ウエトリファイティング	20
25	フェンシング	20～21
26	自転車競技	21～22
27	アーチェリー	22
28	空手道	22
29	少林寺拳法	23
30	なぎなた	23
31	ホッケー	23
32	ゴルフ	23～24
33	ライフル射撃	24～25

< 1 陸上競技 >

1 感染防止対策を講じる

(1) 3密を回避（密閉・密集・密接）する

- ・ソーシャルディスタンス確保の工夫（部屋のレイアウト変更）
- ・室内換気の確保
- ・集合時間をずらした行動 など

① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策

陸上競技場諸室／屋内練習場／更衣室内の室内換気を徹底する

② 密集場所（多くの人々が密集している）の対策

陸上競技場諸室／招集所／雨天時室内練習所／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数に制限する

③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策

陸上競技場諸室／チームベンチ／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数で制限すること。また物品の受け渡しは極力避け、避けられない場合は、手指消毒をする

(2) 競技者に対し実施する

① 競技者に対し競技会 2 週間前からの検温を義務付け、指定の体調記録表（別紙 1）に記載し、受付時に学校同行者検温確認表（別紙 2）にまとめ、提出させる。

主催者は学校同行者検温確認表（別紙 2）を提出していない学校を、出場不可とすることができる

② 疑わしい競技者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない

③ マスク着用の義務（運動時を除きマスクの着用を義務とする）を競技会大会要項に記載する主催者はマスクをしていない人に対し注意を促す

④ 手洗い・手指消毒・洗顔を欠かさないよう注意喚起する

(3) 室内清掃・消毒の準備を整える

(4) 審判員と選手の動線をできる限り分ける

2 対象者毎の配慮事項

(1) 共通事項（主催者は競技会に関わる全ての人に以下の内容を伝える）

- ① 日々の体調管理を怠らず、検温を行い、万一体調不良や平素より高い体温が認められる場合は参加しない
- ② マスク着用，手洗い・洗顔を欠かさない
- ③ 3密回避行動を心掛ける
- ④ 競技会の規模，目的に応じて参加資格に制限をかける
 - ・参加資格記録等でレース数，組数の調整をする
 - ・参加者数に応じた審判員の委嘱する（年齢も考慮する）

(2) 競技者（要項・プログラム等に記載する）

- ① 競技者の体調記録表（別紙1）をチームの代表者が学校同行者検温確認表（別紙2）に取りまとめて主催者に報告・提出する
- ② ウォーミングアップは密を避け，個別に行う
- ③ 競技用具使用前後は手洗いをする
- ④ 更衣室の滞在は短時間にする
- ⑤ 運動中につばや痰を吐かない
- ⑥ 体液の付着したゴミは自己責任でビニール袋に密封し処理（基本的に持ち帰り）する。

(3) 主催者/競技役員（以下を伝え，必要に応じ委嘱状・マニュアル等に記載する）

- ① 主催者は文書・メール等を活用し，事前打ち合わせを減らす工夫をする
- ② 主催者は参加者数に応じた審判員を委嘱する
- ③ 主催者は新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい65歳以上の競技役員には出来る限り委嘱しないこととする
- ④ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患（糖尿病，心不全，呼吸器疾患，高血圧，透析を受けている者，免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等）を持っている者は委嘱を受けた後速やかに主催者に申し出て競技役員を辞退する
- ⑤ 主催者・競技役員は競技者との接触を減らす工夫をする
- ⑥ 競技役員は3密の回避行動を心がけ，マスクの着用，眼鏡（サングラス可），手袋（緊急時にすぐ着けられるように携帯する）を用意する

(4) チーム関係者・応援者（事前通知及び当日会場内でアナウンスし注意喚起をする）

- ① 競技場客席，競技場共有エリアでは3密を防ぐためチーム関係者など待機スペースとして使用することを許可する
- ② 声を出しての応援，集団での応援は行わない
- ③ 競技者に付き添う場合は，必ずマスクを着用し，競技者とソーシャルディスタンスを確保するとともに，接触および会話に注意する
- ④ 混雑を回避するため，競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを禁止する

3 競技種目毎の配慮事項

(1) 競技運営・種目共通の配慮事項

- ① 3密を回避できる1日の競技会の参加人数を設定する
参加人数制限やレース間隔は行う競技会の特性によるため，実施する競技種目により，運営内容について検討する必要がある一方で，感染防止策が取れる方法で，実施する競技種目を決定するという方法もある。どちらを選ぶかは主催者の判断とする。
- ② スタート待機及び招集時間を分割し密集を防ぐタイムテーブルを設定する
- ③ 競技開始前（招集～スタート地点での待機）
3密の回避として，招集時刻を分散化（細分化）し，招集所は競技者同士の距離はソーシャルディスタンスを確保し，手続きの簡略化（滞在時間の短縮）を行う
- ④ 滞在時間の短縮のため選手紹介は簡略化する

- ⑤ 競技中・フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者のケアについては、防護体制を整えたスタッフで対応する
- ⑥ レース後は、手洗いへ直行する動線を確認し、手洗い・洗顔を徹底するように促す
- ⑦ 中長距離レースについては、他の種目と同様、上記③～⑥を徹底し、スタート整列時に接触しない人数でレースをすることを基本とする
- ⑧ 記録発表については、掲示板の前に人だかりができないように掲示場所の分散化や Web を活用した発表をするなどの工夫をする
- ⑨ 開会式・閉会式・表彰式は原則、実施しない。

(2) トラック種目の配慮事項

- ① 2～3組ずつスタート地点に誘導し、待機場所にゆとりを持たせる（ソーシャルディスタンスの確保）
- ② フィニッシュ後に長時間止まることを防止する
- ③ マスクは招集中・移動中・待機中は着用してもらうよう指導する。あわせてマスク着用による熱中症についても注意喚起する
- ④ 給水の競技役員・補助員は競技開始前に改めてアルコール等で手指を消毒し、マスクや手袋、フェースシールド（またはゴーグル）等を着用する
- ⑤ 混成競技者控室は原則設けない

(3) フィールド種目の配慮事項

- ① 待機場所における選手同士のソーシャルディスタンスを確保し、競技役員は注意を促す
- ② 投てき器具やすべり止めを共用禁止にする必要はない
競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意をすることで対応する
あわせて、競技終了後に手洗い・洗顔を実施させる
跳躍種目における着地マットや砂場も同様である
- ③ コーチがスタンドから下に向かって話す際は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保して、話すよう注意する
- ④ 助走練習、投擲練習時に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保するか、あるいは競技役員が1人ずつ順番に呼び出す形式をとる
- ⑤ 選手同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう注意喚起を促す
- ⑥ 競技役員・補助役員の手旗、パソコン、計測器などの共用は極力避けるが、共用する場合には、使用前後に手洗い、機器の消毒を行う

4 施設における配慮事項

(1) 施設入場時の配慮事項

- ① 競技役員及び競技者受付所など、対面して受付を行う場所にシールド（透明なシートなど）を設置する
- ② 受付やゲートにて、体調不良が疑われる者に検温を実施する
- ③ 手指消毒剤を提供する
- ④ ソーシャルディスタンス確保の呼びかけを行う（整列に必要なマークの設置）

(2) 施設利用上の配慮事項

- ① 常時換気を実施する（窓開け・戸開けの実施）
- ② 諸室・招集所などの座席配置を工夫する（ソーシャルディスタンスの確保）
- ③ 拡声器・通信機器を利用する
- ④ 直接の接触回避の工夫を行う
- ⑤ 多くの者が接触する可能性がある箇所の清掃（消毒）頻度を増加する
（施設所有者・管理者に確認すること）
- ⑥ 雨天時の待避場所の確保・終了後、施設・設備・用器具の清掃・消毒を行う
- ⑦ トイレの清潔化を徹底する（便座の蓋をしてから流すことを徹底する）
- ⑧ 喫煙所を設置しない

- ⑨ ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする
- ⑩ 発熱者が出た場合の、隔離用の部屋を確保する（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションで仕切ったコーナーを用意する）

(3) ウォーミングアップ会場の配慮事項

- ① ソーシャルディスタンス確保の工夫をする
- ② トレーナーステーションは設置しない
- ③ ウォーミングアップ会場への付き添い・観戦を禁止する

5 メディア・取材への配慮事項

(1) 主催者の対応事項

- ① 大会主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。事前申請のない競技会では、大会HPやプレスリリースを通じて周知する。また、当日の受付でも「しおり」などをもとに確認・徹底する。

(2) 取材人数について

- ① 会場（取材エリア／ミックスゾーン／撮影エリア／プレスルームなど）の規模により人数を設定し制限すること（例）1社1名（取材・撮影兼務）or 取材／撮影 各1名 など

(3) 取材方法について

- ① ADカードまたはビブスを用意して報道取材者を管理する
- ② 報道受付では事前に用意した体調管理表の提出を求める
- ③ ミックスゾーンを設置する場合は柵などでソーシャルディスタンスを確保し、3密を防ぐ
- ④ 囲み取材・インタビューは、競技者同意のもとソーシャルディスタンス（競技者と取材者および取材者同士の距離）を確保し実施する

(4) 取材・撮影エリア

- ① 撮影エリアはソーシャルディスタンスで区切る
または、主催者が設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスをカメラマン同士で調整するよう促す

(5) 報道取材者の協力事項

- ① 取材時のマスク着用を義務づける
- ② 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける
- ③ 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する
- ④ クルーを少人数化する

< 2 水泳（競泳・水球） >

競泳

- 参加校を数グループに分け、開門時間、公式練習時間をずらすことにより、入場時、更衣室、公式練習の混雑を避ける。
- 各校とも、スタンド・控え場所はグループごとに区分した範囲で使用し、他者との十分な距離を保ち、他校のエリアに入らないようにする。
- ダッシュレーン順番待ちは、2mの間隔をあける。
- 競技に際しての更衣・招集・入場待機・クールダウンへの移動は、場内放送や電光掲示板、競技役員の指示で行う。
- 競技順序の工夫も行い、競技時間の間隔をあけ、混雑を避ける。
- 招集所の受付テーブルには飛沫よけの透明ビニールカーテンを設置する。
- 記録の掲示は間隔をあけ、数か所に設置する。

水球

- 各校専用使用場所を割り振り、その場所で他者と十分な距離を保ち、待機、観戦を行う。他

校のエリアには入らないようにする。

- 公式練習の時間を指定し、プール内の混雑を避ける。
- ハイタッチ等、接触の禁止。ベンチを広く取る。

競泳水球共通

- 入水している選手以外はフェイスシールドやマスクを着用する。
- 役員は、選手との動線をできるだけ分け、役割に応じて、フェイスシールドやマスクを着用する。
- 選手用の脱衣かごやいすの消毒をこまめに行う。
- ごみは各自持ち帰りを原則とし、周辺のごみの処理については、素手で扱わないようにする。

<3 体操・新体操>

体操・新体操競技においては、鉄棒、フロアを利用者が使用した後に都度消毒することはその活動において非効率であり、安全な利用に支障をきたす可能性が出てくると考える。そのため、体操活動においては、利用者から感染者や感染の疑いのある者を可能な限り排除することに主眼を置き、利用する前の利用者の消毒を徹底することを感染拡大防止対策の柱とする。

- 利用者自身の事前消毒を原則とする。
- 練習会場や競技会場が密にならないように、種目の人数や時間を区切り、ローテーションする。また、出入口や窓を開放することで会場内の空気の滞留を避ける。
- 更衣場所を分散し、時間を区切りローテーションするなど、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 同時に多くの利用者が入場しないように、競技者が待機するスペースを広く確保し、競技時間や進行方法を調整することで互いの身体的距離を確保できるようにする。
- 選手同士での会話は同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 競技者、競技時間、競技種目内容など、競技時に必ず記録しておき、必要に応じて提出できるようにしておく。
- 施設、器具等を、セッティング時に消毒する。
- 会場内への持ち込み品(プロテクター等)は最小限にとどめ、その衛生管理を徹底する。
- 審判を最小限にし、審判・補助役員の席が密にならないように配置する。
- 種目ローテーションの挨拶は、競技前のみとする。
- 使用済みマスクやテーピング等も含め、ごみはすべて持ち帰る。

<4 ボート>

- 移動中の車内や屋内にいる場合は必ずマスクを着用する。
- 役員に関してはマスクを着用し、配置の際は互いの距離を置くこと。
- ボートホルダーはマスクを着用すること。
- 共用する施設、器具及び床等を、使用する人が代わる度に消毒する。
- 艇庫、リギング場、本部、スタート地点において、手洗い場と消毒液を設置し、手洗い消毒をこまめにする。
- 監視の際は、監視員との選手の距離をあける。
- レースの際、レーンの間隔をあけるようにスタートリストを作成する。
- ごみは各自持ち帰りを原則とし、また、周辺のごみの処理については、素手で扱わないようにする。

<5 ヨット>

- 陸上での活動中は、マスクを着用すること。
- 施設（ヨットハーバー）の屋内には立ち入らない。
- 更衣およびトイレの利用については、定員を3名とする。利用前後は、手を中心に消毒を行う。
- 陸上での待機中については、3密を避け一定の距離以上を保つ。（おおむね2メートルを確保する。）
- ペアでの話は向かい合わず同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 競技終了後は、各艇いつも以上に水洗いを徹底して行う。
- マイボトルを用意し、飲料等の飲みまわしは行わない。
- 着艇後は、片づけを行い予定終了後はすみやかに帰宅する。

<6 登山>

競技の特性上、登山行動中よりも、筆記審査、全体集合時におけるの感染防止対策が重要である。

- 全体集合はできるだけ屋外とし、屋内（体育館）の場合は十分な間隔をとり、定期的な換気を行う。（筆記審査も同様に行う。）
- 他校の生徒との接触をできるだけ避ける。交歓会は行わない。
- 全員、登山行動中以外はマスクを着用する。登山行動中でも休憩時に会話をする場合にはマスクを着用する。
- チーム行動中、他チームと間隔を十分に開ける。休憩時は特に注意する。
- 消毒液を準備し、関係者全員に消毒をしてもらう。
- 登山用具（団体装備を除く）、食器、水筒等の共有はしない。
- 保護者の応援のための登山はご遠慮していただく。

<7 スキー>

アルペン競技・クロスカントリー競技共通

- 大会役員は、可能な限りマスクを着用して業務にあたる。
- 開閉会式は行わない。表彰式のみ対象者で行う。
- 代表者会議は、各校1名のみ参加し、必ずマスクをつける。
- 食堂利用時は、マスクを着用し、可能な限り対面を避け、食事をとる場合は会話を避ける。
- スタート地点、ゴール地点では、ソーシャルディスタンスをとり、できるだけ会話を避ける。

アルペン競技

- ソーシャルディスタンスがとりにくい場面（リフト待ち、リフト・ゴンドラ乗車時、コースインスペクション時）は、可能な限りマスクを着用し、会話を避ける。

<8 バスケットボール>

【会場運営について】

- 各トイレ・手洗い場所にハンドソープを設置する。
- 各所にアルコール消毒液を設置する。
- 前試合のハーフタイムのアップは行わない。
- 各試合終了後、各チームは試合で使用した自チームのベンチ、TOやCKはTO器具やモツ

プ等の消毒を行う。

- ドアノブを介した接触感染を防ぐ観点から、各部屋のドアは原則空けておく。
- ドリンク等を冷やすクーラーボックス等は使用しない。
- 各部屋の座席を1.5m以上の間隔を空け、互いが正面にならないよう配置する。
- 審判控室でのミーティングを行う際も3密を避けて行う。
- ロッカールームの使用は、一度に1チームまでに制限する。
- 試合会場のフロアに入れるのは、引率責任者・コーチ・Aコーチ・マネージャー、選手、トレーナー、TOおよびCK、役員、来賓、審判、メディアのみとする。
- 試合会場のフロアへの出入りの際は、手指のアルコール消毒を徹底する。
- 選手のフロアへの入口・出口を別にし、接触を控えるとともに、選手の入れ替えをスムーズに行う。
- 選手の動線（試合後の選手の入れ替えも含む）、ベンチ外の生徒の動線、審判の動線をできる限り配慮する。

【生徒について】

- 会場敷地内へ入るときは、マスクを着用する（ウォーミングアップ、試合出場時を除く）。
- 各チームの会場到着は試合開始1時間半を目安（ただし、1試合目のTO担当校は除く）とし、会場で指示された場所で更衣、待機、アップ等を行う。
- 試合終了後、TOや片付けの無い学校は、なるべく早く会場を出る。
- 校旗、横断幕は掲げないこと。
- コートに入る際の動線、入場のタイミングや順番等は会場の役員の指示に従うこと。
- スクイズボトル等の共用をしない。
- 試合中の不必要な身体接触（握手・肩を組む・ハイタッチなど）は意識して避ける。
- 飛沫感染などの防止の観点から、大声での声援、道具を用いての応援は禁止。

【引率責任者、コーチ等について】

- 会場利用の注意点（アップ場所、動線など）を生徒に徹底する。
- 試合終了後、TOや片付けのない場合は、なるべく早く会場から出る。
ミーティング等も簡潔に行い、ロビーでの密を避ける。

<9 ハンドボール>

- 更衣場所と競技会場の動線をスムーズにし、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 各チームの待機場所を定めていますので、他のチームと交わることをしないようにする。
また、帰る際は各チームで除菌シートなどを用いて、ベンチ・手すりなどの除菌を行うこと。
（ごみは各チームで持ち帰る。）
- ベンチにいる選手は、1m間隔で座る。テープなどを貼り、身体的距離を確保する。
- 応援の時、声を出さない。ハイタッチなども禁止。
- ミーティングの隊形を考え、必要以上の会話は避ける。円陣を組まない。ペアでの話は同じ方向で、周りに聞こえない程度の小声で行う。
- 役員・選手はマスクを着用すること。（プレー中ははずしてもよい。）
- 共用するベンチや椅子、モップ等を、使用する人が代わる度に消毒する。
- トイレなど共用部分は清潔に使用すること。密になって使用しない。
- スクイズボトルの共用での使用は禁止とする。（各自で準備すること。）

<10 バレーボール>

- 各会場の開始式は行わず、試合設定時間に合わせて各校(チーム)は会場に入る。(試合設定時間は、試合間でベンチの消毒・拭き取りが十分行えるよう時間の余裕をもって設定する。)
- 観覧席と体育館フロアの動線を明示する。
- 観覧席出入口、体育館フロア出入口は開放した状態で競技する。
- 試合開始前、終了時には、選手、スタッフ、審判、補助員は手指のアルコール消毒を徹底する。
- 試合は、フォーボールとし、1ラリーごとに消毒・拭き取りしたボールを使用する。消毒・拭き取りは各チームのベンチスタッフ、控え選手で行い、各ベンチで常に控えのボールを準備しておく。
- ラインズマンフラッグは使用しない。(ハンドシグナル)
- コートチェンジ、試合終了時には、ベンチの消毒・拭き取りを行う。
- ベンチスタッフ、控え選手、補助員は、マスクを着用した状態で試合に臨む。
- アップゾーンの制限ラインを設けず、控え選手の間隔を空けやすいようにする。
- 試合開始前、終了時の挨拶は、握手をせず、一礼とする。
- 試合開始前、タイムアウト時、セット間の円陣は間隔をとり、大声での発声を控える。
- プレー中のハイタッチや、ネット際などで相手に向けた状態での発声は控える。
- タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの共用を禁止する。
- 次試合の両チームは、前試合の両チームが完全に撤退した後に競技フロア内に入る。

<11 ソフトテニス>

- ① 生徒、引率者等及び大会関係者は会場に入る際、必ずマスクを着用すること。
試合中には十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合の前後ではマスクを着用すること。審判もコールが聞こえにくい場合が考えられるので、マスクを外して審判を行う。
- ② 開会式・表彰式を実施しない。
- ③ 会場を分散させることにより、1会場に集まるチーム数を制限する。
受付は、地区単位あるいは学校単位で受付時間を設定し行う。あるいは受付場所が確保できれば受付を分散する。
- ④ 会場内における他人との距離について
 - ア 試合以外の次の場所において、他人との距離を2メートル(最低1メートル)確保すること。受付、会場内の通路や選手待機場所、観客席(前後左右1席以上あけて座る)
 - イ 試合中または試合前の次の場面において、他人との距離を2メートル(最低1メートル)確保すること。
インプレー以外の場面(ペアで話をする際、試合開始前及び試合後の整列の際、ベンチ入り指導者・監督が指導する際、ベンチ待機の際等)
- ⑤ 試合前のアップおよび試合において、選手が密集・密接する円陣や声出し、整列などは控えること。
- ⑥ コート開放(コートでのアップ)は、少人数になるように順番・時間を設定する。
- ⑦ 試合開始前の挨拶、トスおよび試合後の挨拶はネットから1m以上離れて行うこと。
また試合後の選手間での握手も禁止とすること。
- ⑧ ペアなどとのハイタッチや握手は行わず、至近距離での声掛けも行わないこと。
- ⑨ 団体戦においてコートに入場できるのは対戦する選手と、監督のみとし、待機選手はコート

外で一定間隔を保ち応援するよう努力すること。

但し、原則待機選手はコート外だが2・3面展開及び相互審判の時だけはコートに入ってよい。

- ⑩ 用具、用品（ラケット、タオル、ウェアなど）のシェアをしないこと。また、マイボトルを用意し、チーム内でのコップの共有、使い回しを行わないこと。
- ⑪ 競技場内で、複数の関係者が触れると考えられる場所や物品（審判台、審判用具、バインダー、ドアノブ、テーブル、椅子など）について、こまめに消毒すること。
- ⑫ 多数の選手が関わる審判員の使用する筆記用具は、審判員各自で用意し、共用を避けること。特に、トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）についてはこまめに消毒すること。また、手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意し、「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること。
- ⑬ 試合終了の度に、こまめな手洗いをを行うこと。
- ⑭ 会場に配備しているゴミ箱などを大会期間中は撤去し、ゴミは各自持ち帰ること。

<12 テニス>

- 試合開始前の挨拶、トスおよび試合後の挨拶はネットから1m以上離れて行うこと。また、試合後の選手間での握手も禁止とすること。
- 審判は付けず、セルフジャッジとする。
- 用具、用品（ラケット、タオル、ウェアなど）のシェアをしないこと。また、マイボトルを用意し、チーム内でのコップの共有、使い回しを行わないこと。
- 競技場内で、複数の関係者が触れると考えられる場所や物品（審判台、審判用具、バインダー、ドアノブ、テーブル、椅子など）について、こまめに消毒すること。
- 共用する施設、器具等を、適宜消毒する。
- 試合終了の度に、こまめな手洗いをを行うこと。
- 大会使用球は試合ごとに交換する。
- 受付や各コートに消毒を設置し、手洗い・うがい・消毒を随時呼びかけていく。
- 学校ごとの待機場所を確保し、試合会場内の動線を指定する。

<13 卓球>

- 当面の間、ダブルスは行わず、シングルスのみ開催可とする。
- 試合前後の握手などの身体を接触させる挨拶は行わない。
- 会場の出入り口にアルコールを配備する。
- 卓球台は十分な間隔を開けて設置する。
- チェンジエンドは行なわない。
- 複数コートのボールの混在を避ける。
- 卓球台の上で手を拭いたりしない。
- シューズの裏を手で拭くことはしない。
- 試合中は、卓球台、ボールに触れた手で顔（特に眼、鼻、口）を触らないように努める。
- ベンチコール方式を採用する際は、待機所が密にならないように十分に配慮する。
- ベンチコーチからアドバイスを受ける際は対面を避け、同じ方向を向いて行う。
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしない。
- 選手・コーチ用ベンチ、審判席、カウンター等を各試合終了後に各自で消毒する。
- 参加校は必ず消毒用具を持参し、こまめな消毒を行う。

<14 サッカー>

(1) 健康観察

検温ができていない場合は、非接触型体温計で検温する。

(2) 人数制限

試合会場への入場は、出場チームの選手、スタッフ、役員、及び大会本部が許可した者のみとする。利用する会場や感染状況によっては、入場を制限する措置を講ずる。

(3) マスクの着用

- ① 主催者は、選手、スタッフ等及び大会関係者に、マスク等を準備させ、大会中は、競技等実施時及び食事中等を除いて、基本的にマスク等を着用し、咳エチケットを徹底する。
- ② 気象状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外す。その際、身体的距離の確保を徹底し、会話を極力控える。

(4) 手指衛生、消毒等について

- ① 石鹸・アルコール消毒液等は各チームで携行する。
- ② 本部でも石鹸・アルコール消毒液等を準備し、必要に応じて対応する。
- ③ 使用した場所（椅子・机・ドアノブ・スイッチ・ロッカーの取手等）については、各チームで消毒を行う。

(5) 諸室・更衣場所について

- ① 必要に応じてドア及び窓を開け換気をする。
- ② 広さにはゆとりを持ち、選手同士が密になることを避け、お互いが正面に座らないように配慮する。難しい場合は、一度に使用する人数を制限する。
- ③ 座席を設置する際に前後左右 1.5～2 m間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する。

(6) トイレ・手洗い場

- ① 手洗い後に手を拭くためのタオル等は他人と共有せず、各個人で用意する。
- ② 便器の蓋を閉めて汚物を流す。

(7) ベンチ

- ① 十分な間隔を空けて座ることができる広さを確保する。難しい場合はベンチエリアを拡げる。なお、暑熱対策を十分に講ずること。
- ② 試合に出場する選手以外は基本的にマスクを着用し、会話を最小限にする。

(8) 試合の前後または試合中に避けた方が望ましい行為

- ・ 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手
- ・ 密になる円陣
- ・ 得点時のハイタッチ、抱擁
- ・ つばを吐く、手鼻をかむなどの行為
- ・ 口に含んだ水を吐く行為
- ・ タオルの共有
- ・ 近距離での会話や咳エチケットに反する行為

(9) 試合終了後

- ① ゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、各チームで持ち帰る。
- ② ゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ③ 試合終了後は、審判や運営などやむを得ない事情を除き、速やかに会場から退出する。

<15 ラグビー>

【共通事項】

- 各所にアルコール消毒液を設置する。
- 各トイレ・手洗い場所に、ハンドソープを設置する。
- 会場敷地内へ入るときは、マスクを着用する（但し、ウォーミングアップ、試合出場時を除く）。

【試合開始前】

- スタンドまたは、会場内の特設テントに各校専用使用場所を割り振り、その場所において他者と十分な距離を保ち、更衣、待機、観戦を行う。他校のエリア並びに、保護者の観覧指定エリアに入らないようにする。
- 更衣室の使用については、更衣のみの使用とし、更衣後はスタンドまたは、特設テントに移動する。更衣室の使用は、一度に1チームまでに制限し短時間で使用とすること。

【アップ～試合中】

- 水分補給の為にスクイズボトル等は、共用をしない。
- 飛沫感染などの防止の観点から、大声での声援、道具を用いての応援は禁止する。
- ベンチスタッフ、控え選手、補助員などは、マスクを着用する。
- 試合開始前、終了時の挨拶及び、コイントス時の挨拶は、握手をせず一礼とする。
- 試合ごとに使用球（3球）を交換する。試合中において、ボールパーソンは、競技区域外に出たボールを、ボール交換時に、濡れタオル等で拭き去る。
- ユニフォームの共有はせず、各チームは必要に応じて同じ型の予備のユニフォームをあらかじめ準備しておくこと。

【試合後】

- こまめに手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- チームベンチの使用後は、各チームで除菌シートなどを用いて除菌を行うこと。
- ごみについては、各チームで責任をもって持ち帰ること。

<16 ソフトボール>

- 試合前、終了後などに各自、手洗い、うがいをこまめに徹底して行う。（ベンチ内・バックネット裏・トイレ等に消毒用ハンドミストを設置する。）
- 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする。
- 攻守順の決定の際や打順表確認の際の主将、監督、判員の握手は行わない。その際、可能な限りお互いの距離をあける。
- チームの監督またはその代行者は、必ず試合前に再度チーム全員の体調を確認し、発熱や体調不良等がある構成員はベンチ入りをさせない。
- 試合中のマスクの着用はしなくてもよいが、試合以外の場合は、選手、審判員、記録員はマスクを着用する。（大会本部内は可能な限りお互いの距離をあける。）
- ベンチではなるべく座る間隔を広くとる。また、大きな声を発さない。
- 円陣を組むなどは密集にならないよう配慮し、試合中マウンド上で集合する際は、グラブを口に当てることとする。
- 素手でハイタッチ・握手を控え、ボールを触った手で目・口・鼻を触らないよう指導する。
- 主催者は、各球場に手指消毒液を確保し、球場入口、1、3塁ベンチに設置し、定期的に補充する。

- 主催者は、各球場に消毒用具を準備し、試合ごとにダグアウト内を使用したチームが清掃、消毒を行う。消毒箇所は、ベンチ、手すりなど不特定多数の者が接触する場所とする。
- 主催者は、全ての球場のダグアウトに工業用扇風機を配備・稼働させる。

<17 バドミントン>

- 試合中の選手は十分な距離を確保しながらマスクを外してプレーを行うが、試合以外の場面では必ずマスクを着用する。
- 観覧席へ座る際は、前後左右で連続しないように間隔を開けて着席する。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、放送によって諸注意のみを行う。
- 朝の公式練習や試合の順番については全て放送で指示をするので、放送があるまで観覧席で待機をし、フロア出入口で待機をしない。
- 競技フロアへの出入りの度に、出入口で必ず手指の消毒を行う。
- 消毒液は本部で準備するが、各校の参加者もできるだけ消毒液を持参する。
- 1時間おきに出入口、階段、トイレなどを中心に館内の消毒を行う。
- 審判台は使用しない。線審にはイスを用意するが、試合の度に消毒を行う。
- 審判用紙への勝者サインは行わない。
- ダブルスのペアでの話は、対面せずに同じ方向を向いて行う。
- 試合の勝者は手指の消毒後、コートおよびコート周辺のモップ掛けを行う。
- 試合の敗者は手指の消毒後、本部で審判用紙等を受け取り、次の試合の審判を行う。
- 個人の試合に用いる道具（ラケット・シューズ・ウェア等）の貸し借りは禁止とし、本人以外の者が触れることがないようにする。
- インターバル中の選手へのアドバイスは、選手と対面せず、距離をとって行うこと。
- 氷嚢や飲料は、選手が自分で用意しておき、自分で使用する。チームメイトおよび顧問、コーチが届けることや、氷嚢を首に当てる行為は行わない。
- 声を出しての応援は禁止する。他校の使用している席やその付近で応援をしない。

<18 柔道>

【大会役員、審判、監督、引率教員への対応】

- 原則マスクを着用する。
- 監督、引率教員は試合中（すべての間）に大きな声で指示、指導をしないよう要請する。また、大会の申し合わせにより、審判員には注意と退場の権限（1回目は口頭注意、2回目は退場）が与えられる。
- 多くの人に触れる場所はこまめに清掃、消毒を行う。特に試合中に出血や汚物等で畳が汚れた場合は試合を一時中断し、清掃、消毒を行う。

【選手への対応】

- 試合待機中、控え席等では2m程度離れる。
- 試合または準備運動中以外はマスクを着用し、大声での応援、指示は禁止する。
- こまめに手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- 水分補給は各自準備し回し飲みやコップの共用をしないようにする。

<19 剣道>

大会参加者は、全日本剣道連盟「対人稽古再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び広島県剣道連盟「稽古再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守し以下のことに留意して大会に参加する。

また、運営の詳細については別に定め、大会参加者に周知徹底する。

(1) 参加選手の守るべき事項について

- マスクは常時着用し、剣道着、袴、剣道具、竹刀の共用はしない。
- 準備運動、素振りを行う場合は、1列となって同じ方向を向き、お互いの距離は2メートル確保する。
- 稽古・試合を行う場合は、「面マスク」は必須、「面シールド」は着用が望ましい。
- 稽古は、人数と時間を決め、主催者で計画を立て実施する。
- 稽古・試合の前後は、石鹸をつけての手洗い、うがい、手指消毒を十分に行う。
- 水分補給はこまめに行う。(熱中症対策)

(2) 試合場の共用物品について

以下のものについては、大会開始前、補助員交代時、大会終了時等に適宜消毒する。

- ①監督旗 ②タイマー旗 ③ストップウォッチ ④電子ホイッスル

※審判旗は、各自持参する。

(3) その他の留意事項

今後の状況に変化があった場合は、対応の変更や見直しがあることとする。

<20 相撲>

【参加者の行動】

- (1) 競技時以外は、マスクを着用し、こまめに手洗い(30秒以上)、手指消毒を行う。また、真正面での会話は避ける。
- (2) 会場では、常に密集、密接、密閉を避けるように心掛ける。
- (3) タオル、うがい用の水(ペットボトル等を準備)は、自分専用のもを使用し、排水は定められた場所で行う。
- (4) 参加者同士の大声での声援、指示、指導は禁止とし、競技時以外は、決められた場所で周囲の者と十分な距離を保って観戦する。

【監督・コーチ等の行動】

- (1) 作戦指導・指示等は、控えに入る前に済ませ、その後大声での指導・指示・応援は行わない。
- (2) 真正面からの指導・指示は避ける。

「審判の行動」

- (1) 主審以外の審判は、競技中もマスクを着用する。
- (2) 主審は、飛沫拡散を配慮し、通常より1歩程度後ろで動作を行う。
- (3) 主審の判定に異議・疑義が生じた場合、審判員は、マスク着用の上、隣の審判員と通常より若干の距離を取って協議を行う。

【その他】

- (1) 飲食は指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。飲みきれなかった飲料は、中身をカラにしたうえで指定場所に捨てること。
- (2) トイレの使用については、会場の規則を遵守し、使用後は30秒以上の手洗いと自分専用のタオルで手を拭くこと。

<21 弓道>

- 選手は競技以外ではマスクの着用を義務付け、各自が2m程度離れ、控え場所も密にならないようできるだけ屋外に分散し、大声での会話や騒ぐことがないよう指導する。
- 密が避けられない開会式は行わず、表彰式を兼ねた閉会式のみ行う。その際、表彰者の整列も間隔を十分に取って行う。
- 道場の広さによっては、時間帯で人数制限を行うなど考慮すること。
- 狭い更衣室では「3密」にならないよう使用制限を設けること。
- 主催者は、各会場に手指消毒液を準備する。
- 会場によって密が避けられない場合は、原則として競技者や役員などの関係者以外の立ち入りを禁止とし、参加者は選手と引率者のみとする。
- 試合では招集場所や選手控え場所を変更することで選手間の接触をできる限りなくす。
- 試合前チーム内で気持ちを鼓舞するような掛け声やタッチを禁止する。
- 他人の弓具に触れないこと。
- 試合会場で複数の関係者が触れる場所についてはこまめに消毒する。除菌シートを矢立箱付近に設置し、共用する物品についても使用前には消毒する。また試合で使用した矢が返却されたときは、各自除菌シートなどで消毒する。

<22 レスリング>

- 会場入り口などに消毒液を設置する。
- 会場への集合時より競技中など、手・指・顔などの洗浄・消毒を呼びかける。
- ウォーミングアップを時間帯でグループ分けし、密を避ける。
- メディカルチェック、計量はグループごとに行う。
- 競技中、マット周辺が密にならないように審判員、各顧問は指導するとともに、大会運営委員は、放送等で呼びかけを行う。
- 大きな声での会話や応援は控える。
- 出場競技開始直前直後の競技者、コーチ、審判等の手・指アルコール消毒(試合ごと)を行う。
- 競技中、監督・コーチはマスクを着用する。また、審判員はフェイスシールドを着用し、競技者で行う握手は避け一礼にかえる。
- マット消毒は一時間程度を目安に行う。
- 大会中のゴミについては各自が責任を持って持ち帰る。

<23 ボクシング>

【会場】

- 定期的に窓を開け換気を行う。
- 会場内への出入りはマスク着用を厳守させる。
- アルコール消毒液を、入り口、ドクター、レフリー、補助員待機場所に設置する。
- 手洗い場には石けん(ポンプ型)、ペーパータオルを設置する。
- 競技時のうがい用の水は、競技者一人に新品のペットボトル飲料を用意する。
- レフリーのゴム製グローブを用意し、試合ごとに付け替える。
- ジャッジ・スタッフ・セコンド用のフェイスシールドを用意する。

【競技】

- ウォーミングアップは選手の出場予定時刻などを考え、場所・時間を指定する。

- 実戦練習（マスボクシングやスパーリング）は禁止する。
- インターバル時，うがいの廃液の受け容器は試合ごとに交換・消毒を行う。
- 試合後の相手セコンドとの身体的接触（握手など）は避ける。
- 競技者が共用のグローブ・ヘッドガードは試合ごとに消毒する。
- グローブ・ヘッドガードはナンバリングし，どの選手が使用したか記録を残す。
- リングロープは試合ごとに消毒し，リングキャンバスはその日の競技終了後清掃する。

<24 ウェイトリフティング>

- 施設，器具等をセッティング時に消毒する。
- 審判は各校の顧問で行い，役員人数を最小限にする。
- 選手・役員は会場に入る前，試技終了時にこまめな手洗いや消毒をする。
- 選手・役員はマスクを着用し，密にならないように距離を保つ。ただし選手はアップや試技などの競技中はマスクをはずしてよい。
- 検量時は他の選手と十分に距離を保ち，検量室には1名の選手のみ入室する。
- アップ場では，1つのリングに対して選手1名セコンド2名までの入場に制限する。
- 試合前のアップにおいて，選手の間隔を十分に確保し，向き合わないようにする。
- 試技の際の重量板の取り付け・取り外しには，補助員が手袋をはめたうえで実施する。
- 競技中は発声による応援を控える。
- 選手はアップ前に手の消毒を行う。また試技後は手を水洗した後，手の消毒を行う。
- タオルやアイシングバック等の共用を禁止する。
- 会場の窓やドアを開放し室内の換気を徹底する。
- ゴミは各自持ち帰りを原則とし，周辺のゴミは素手で扱わないようにする。
- 水分補給では，個々でマイボトルを用意し，チーム内でのコップの共有・使い回しをしない。

<25 フェンシング>

1 基本原則

- 試合中の選手は十分な距離を確保しながら一般のマスクを外してプレーを行うが，試合以外の場面（アップを含む）では必ず一般のマスクを着用する。
- 他の選手やコーチ，スタッフ等との距離（できるだけ2 m以上）を確保する。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず，放送によって諸注意のみを行う。
- 朝の公式練習や試合の順番については，全て放送で指示をする。放送があるまで観覧席で待機をし，フロア出入口で待機をしない。

2 競技中及び競技後

- 監督席，選手控え席に座るときは，一般のマスクの着用を原則とする。
- 選手は原則として競技中に発声してはいけない。
- 選手は審判への説明や抗議を行う際には，発声することができるが，距離（できるだけ2 m以上）を確保する。
- 選手は競技終了時に選手や審判，コーチ等と握手等の接触は行わない。
- 審判はフェイスガードと一般のマスクの着用を原則とする。
- インターバル中の選手へのアドバイスは，選手と対面せず，距離をとって行うこと。
- 記録用紙へのサインは行わない。
- 声を出しての応援は禁止する。他校の使用している席やその付近で応援をしない。

3 その他

- マイボトルを用意し、飲料等の飲みまわしは行わない。
- 1時間おきに入出口、階段、トイレなどを中心に館内の消毒を行う。
- ピストに設置されている審判器、補助員用の机・椅子等は、試合の度に消毒を行う。
- 試合に用いる道具（フェンシングウェア、剣、マスク等）の貸与・共有は禁止する。
- タオルの共用はしない。
- 飲食については、指定の場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする。
- 飲みきれなかったドリンク等を指定場所以外に捨てない。

<26 自転車>

トラック

- 会場の入口に消毒液を置き、入退場時には必ず手指の消毒をする。
- 競走系種目のスタートは選手同士の間隔を広くとる。
- 更衣場所および控え場所を広く取り、選手の密集状態を防ぐ。
- 次の競技者が待機するスペースを広く確保し、間隔を空けてテープを貼るなど選手の身体的距離を確保する。
- 共用する施設・設備および器具等の定期的な消毒を実施する。
- ウォーミングアップおよびクールダウン時に使用するローラー台の設置において十分な距離をとる。

[種目別]

- ① スプリント… 予選時はバンク内側で機材に乗った出走直前の選手同士の間隔を1車身以上開ける。決勝時の1対1の場合は、相手との距離を1m以上開けてスタートラインに並ぶ。
- ② 1km (500m) タイム・トライアル… 決められた順番で順次発走する。次の選手はスタート位置近辺にて間隔を開けて待機する。
- ③ 3km (2km) インディヴィデュアル・パーシュート… 決められた順番で順次発走する。次の選手はスタート位置近辺にて間隔を開けて待機する。
- ④ ケイリン… 6車立てを基本とし、スタートにおける他選手との間隔をできるだけ開ける。
- ⑤ スクラッチ… 1番選手のみ発送員による機材の保持を受ける。それ以外の選手はバンク外側のフェンス部分につかまり、距離をとって縦一列に並ぶ。
- ⑥ ポイント・レース… 1番選手のみ発送員による機材の保持を受ける。それ以外の選手はバンク外側のフェンス部分につかまり、距離をとって縦一列に並ぶ。
- ⑦ 4km 速度競走… 他選手との間隔をできるだけ開けてスタートラインに並び、号砲の合図でスタートする。
- ⑧ チーム・スプリント… 決められた順番でホームとバックからそれぞれスタートする。次のチームはスタート位置近辺にて間隔を開けて待機する。
- ⑨ 4km チーム・パーシュート… 決められた順番でホームとバックからそれぞれスタートする。次のチームはスタート位置近辺にて間隔を開けて待機する。

ロード

- 会場到着後は駐車場にて各学校の自家用車およびレンタカー付近に待機する。
- 待機時のローラーによるウォーミングアップは、ローラー台の設置距離を十分にとってから行う。
- 受付およびサインシート記入時には選手は間隔を開けて並ぶ。

- 競技開始 15 分前にスタート位置近辺にてできるだけ間隔を開けて待機する。
- 水分補給については、各自が用意した飲料ボトルを使用する。

<27 アーチェリー>

- 入口に消毒液を置き、入場時には必ず手指の消毒をする。
- 競技場は、レーン幅や選手間の間隔を確保し、密にならないような対策を講じる。
- シューティングライン上で 1 人当たりの間隔を確保（1 レーン 6 m に 4 名等）できるように、会場の環境や安全を考えて標的配置を決定する。
- 配布物（プログラム・競技者番号・スコアカード等）は事前に個人別に分けて袋に入れて、テーブルに並べ、参加者に自分で取ってもらい、手渡しはしない。
- 用具検査の担当審判員は、マスクとゴム手袋を着用する。
- 検査については、用具の手渡しは行わず、選手に用具を指定場所に置いてもらい、審判員が手に取って検査し、終了後、指定場所に戻す。
- 監督・コーチは指定されるウェイティングラインを指導ポジションとする。
- 競技中のスコアカード・集計端末の管理は選手が行う。スコアカードを挟むバインダーは共有せず、1 人 1 枚ずつ採点相手のものを競技終了まで管理する。
- 審判員が矢の判定で呼ばれたときは、選手を標的から遠ざけて、安全な距離を確保する。
- スコアカードの提出は、審判員への手渡しは行わず、記録席付近に専用の回収ボックスを用意し、選手が確認して提出する。

<28 空手道>

- ウォーミングアップにおいては声を出さない。マスクまたはフェイスシールドを使用すること。
- 安全具の貸借はしない。一試合ごとにアルコールで拭く。
- 組手試合においては気合なし。形試合においては形名・気合なし。選手名と形名はコート係が呼び上げる。
- 消毒液を本部関及び会場数箇所に準備する。
- 手洗い場に設置してある「石鹼（ポンプ式）」を使用する。
- 選手は観客席に座る。観客席においてもフロアーにおいても 2 m 程度間隔を開ける。試合時の待機場所についても同様とする。
- 更衣室での私語は禁止。
- 試合中の応援・アドバイスは禁止。円陣や団体組手での選手の送り出しも禁止。拍手のみ可とする。
- 各自が使用したマスクやゴミは各自で密閉して持ち帰ること。
- 開閉会式（表彰）はしない。試合後の各校のミーティングはマスク着用の上、短時間とする。
- 審判・補助員は全員マスク着用。選手も待機時はマスクを着用する。
- 補助員は交替するたびに座席、道具（タイマー等）の消毒を行う。

<29 少林寺拳法>

- 更衣場所への入室人数を制限し、更衣場所の密集状態を防ぐ。
- 当該種目の出場者以外は、観客席に間隔をあけて座り待機する。
- 競技者が待機するスペースを広く確保し、間隔を空けて待機させることで、待機する競技者同の身体的距離を確保する。また、待機場所を競技コートから離れた場所に設置する。
- 審判員にはマスク着用を義務付け、配置場所を通常よりもコートから離れた位置とする。
- 会場の扉を開放した上で工業用扇風機等を活用し、室内空気の滞留を避ける。

<30 なぎなた>

- 開閉会式は実施しない。連絡等は、館内放送にて行う。
- 競技中、アップ中、給水中、食事中以外は、大会参加者全員がマスク等を着用する。
- 審判、競技役員、補助員は、競技中、常にマスク等を着用する（ただし、審判による吹笛時を除く）。
- 試合競技の選手は、アップ時も含め、マウスシールド等を装着・着用する。
- 試合における整列時は、生徒同士の間隔を広く取る。
- 選手の入替え時は、選手同士との身体接触（自チーム選手への励ましのタッチ等）を避けるよう、周知する。
- 用具（なぎなた、防具、手ぬぐい等）や水分補給は個人のものを使用し共用はしない。破損等により、やむを得ず共用する場合は、消毒液による消毒を行う。
- 競技部門間の休憩時間を長くとり、流水・石けんによる手洗いや、手指・足底の消毒液による消毒を励行する。

<31 ホッケー>

- 試合開始前の挨拶は対面せず、握手も禁止とする。
- 用具・用品の共用を避ける。（ボトル・タオル・ウェアなど）
- 更衣室は更衣のみの使用を許可し、使用後は換気を行う。
- 試合に関わる役員数は、必要最低限に抑え、密を避ける。
- 入口に消毒液を置き、入場時には必ず手指の消毒をする。
- 受付や各コートに消毒を設置し、手洗い・うがい・消毒を随時呼びかけていく。
- 試合終了の度に、こまめな手洗いを行わせる。
- 選手送迎バスについては、乗車時にマスクの着用を義務づけ、窓の開放をして換気を十分に行わせる。
- 開会式・閉会式および表彰式は行わず、監督への連絡によって諸注意のみを行う。
- ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする。

<32 ゴルフ>

【大会期間中の感染予防策】

- ロッカーは間隔を空けて使用する。
- スタート時刻について、大会のティータイムは8分間隔とし、スタート地点には、スタートする組だけが10分前に集合すること。
- スターターについて

- ・テントまたは小屋を使用し，2方向を開放する。
- ・ソーシャルディスタンスの確保のため，選手との間隔を開けて机を配置する。
- ・追加のローカルルール等の説明は，口頭による伝達ではなく文書で配布する。
- ・カードを含めた配付物はテーブルに置くこととし，選手自身で取ること。

○ アテスト

- ・スコアカードのやり取りを避けるため，マーカー署名を省く。

*以下のローカルルールを追加する。

「マーカーはスコアの証明を口頭で行うことができ，マーカーの口頭での証明を受けて，プレイヤー自身がマーカーの証明があった旨をスコアカードに記載することで，規則 3.3b に基づくマーカーの証明があったものとみなす。」

- ・ソーシャルディスタンスの確保のため，間隔を開けるため立ち位置を示す。

- 競技委員・マージャーはコース内を巡回する際，他の競技委員との乗用カートの共用を避ける。また，選手との会話の際のソーシャルディスタンスの確保を心掛ける。
- 成績表示は密の状況を避けるため，成績表示は分散して掲示する。
- 表彰式は実施しない。

【行動規範】

新型コロナウイルス感染を避けるため，大会期間中は専門部が決めた下記の事項を順守し，専門部の指示に従うこと。

- マスクを持参すること（スタートやアテスト，車内，トイレ，ホテル内等共用スペースはマスク着用）
- こまめな手洗いを行うこと（30秒程度かけて水と石鹸で丁寧に洗う）。
- 設置している消毒用アルコール剤で手指消毒を実施すること。
- 口・鼻・目に不用意に触れないこと。
- 可能な限りソーシャルディスタンス（約2m）を保つこと。
- 競技中に大きな声で会話，応援等をしないこと。
- 旗竿に触れることを極力避けること。

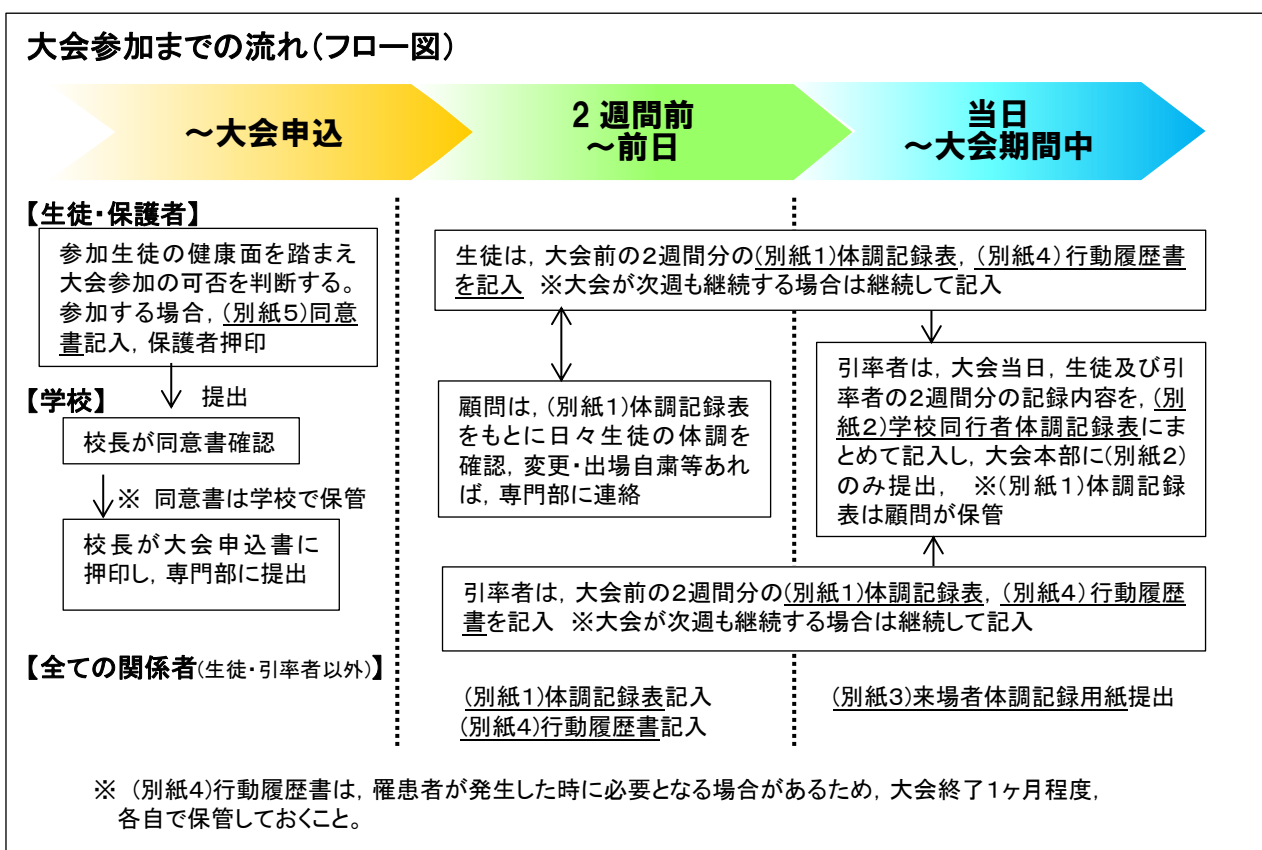
<33 ライフル射撃>

- 人と人との接触を避け，身体的距離を確保させる。
（できるだけ2mを目安に（最低1m）を確保するように指導を行う。）
- 競技会場内では，全員マスクを着用する。
- 競技会場では，左側通行を原則として適切な距離を保って移動する。
- 換気のため，終日，窓・扉等は開放しておく。
- 共用する器具及び机・椅子等は，使用する人が代わる度に消毒する。
- 競技会場入口・トイレ出入口前に消毒用のアルコールを設置し，手指消毒を徹底する。
- 各学校の待機場所を広く取り，同じ学校の選手同士が密にならないようにする。
- 各学校の更衣場所を分散することにより，密集状態を防ぐ。
- 次の競技者が待機するスペースを広く確保し，間隔を空けてテープなどを貼り，身体的距離を確保する。
- 待機場所に設置する椅子の間隔を2m離すとともに，射座に向かって同一方向を向くように設置する。（対面座席は禁止）
- 各選手が試合で使用する用具は，1か所にまとめて置かず，間隔を空けて置く。
- 射座と射座の間隔を1射座ずつ間隔を空け，隣り合う選手同士の距離を離す。

- 大会時間短縮のため、ファイナルは実施しない。
- 銃・用具等の共用は原則として行わない。(ただし、用具の不足により、どうしても共用が必要な場合は、必ず消毒を行ったうえで使用すること。)
- 選手はマスクを外して競技を行う。(熱中症対策)
- 応援する生徒等は、マスクを着用することとし、声を出しての応援は行わない。
拍手の応援のみとする。
- プリンター・コントロールボックスは、競技役員で操作を行う。
- 射場長は、マスク・手袋を着用し、競技進行はマイクを使用して指示を行う。
- 試合の準備・片付けにおけるサポーターは付けないこととし、射座への用具の搬入・準備・片付けは選手個人で行うこととする。
- 密集を避けるため、記録の掲示は行わず、記録表をプリント配布する。
- 晴天時については、休憩・昼食等は極力、屋外でとることとし、飲食中の会話は自粛する。
(雨天時は、分散した待機場所を別途準備する。)
- ゴミは原則、各自持ち帰りとする。」

別紙一覽

□	【別紙1】体調記録表
□	【別紙2】学校同行者体調記録表
□	【別紙3】来場者体調記録用紙
□	【別紙4】行動履歴書 / 記載時の確認事項
□	【別紙5】同意書
□	主催者用チェックリスト・参加校用チェックリスト
□	広島県高体連主催・共催県大会の大会概要及び大会開催計画書
□	広島県高体連主催(3大会)地区大会の大会概要及び大会開催計画書
□	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者入場許可証 ・ 入場保護者確認表 ・ 広島県高体連主催大会における保護者入場に関する確認事項



NO.

体調記録表

所属 () 氏名 ()

◎ 自身の体調について、素直に申し出るようにしてください。体調の異変を感じた際は、早めの相談や受診をお願いします。

	月日	曜日	体温	体調について (各項目の□に✓をすること)
1	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
2	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
3	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
4	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
5	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
6	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
7	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
8	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
9	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
10	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
11	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
12	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
13	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない
14	月 日		℃	<input type="checkbox"/> せき、のどなどの痛みなど風邪の症状はない <input type="checkbox"/> 体のだるさ、息苦しさはない <input type="checkbox"/> 味覚や嗅覚 (きゅうかく) の異常はない

NO.

令和2年 月 日

学校同行者体調記録表

学校名 () 引率者氏名 ()

- ① 平熱を超える発熱（概ね37度5分以上）
- ② 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
- ③ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- ④ 味覚や嗅覚の異常

NO	氏名	本日の 体温 (°C)	体調記録表（2週間の間）において、異常がなければ各項目に✓をすること。				備考
			①	②	③	④	
引率者		.					
引率者		.					
1		.					
2		.					
3		.					
4		.					
5		.					
6		.					
7		.					
8		.					
9		.					
10		.					
11		.					
12		.					
13		.					
14		.					
15		.					
16		.					
17		.					
18		.					
19		.					
20		.					
21		.					
22		.					
23		.					
24		.					
25		.					

※枠が不足する場合は、用紙を追加してください。

来場者体調記録用紙

所属 () 氏名 ()

1 記入事項

※ 個人情報取得については、大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染の発症があったと報告を受けた場合に必要となる拡大の予防対策措置のためであり、その目的の達成に必要な範囲内で使用します。なお、主催者側で1か月程度保管し、その後は破棄します。

(1) 以下の事項に該当する場合は、自主的にご参加を見合わせてください。

- ① 体調がよくない(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ② 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある
- ③ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
- ④ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある

該当する ・ 該当しない

(2) 連絡先等

氏名 () 年齢 () 歳

住所 ()

電話番号 ()

(3) 本日の体温 () °C

(4) 前2週間における以下の事項の有無(いずれかに○をしてください。)

- | | |
|-----------------------|-----|
| ① 平熱を超える発熱(概ね37度5分以上) | 有・無 |
| ② 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状 | 有・無 |
| ③ だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難) | 有・無 |
| ④ 臭覚や味覚の異常 | 有・無 |
| ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等 | 有・無 |

2 確認事項

(1) マスクを着用すること(受付参加時や着替え時の競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。)

(2) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。

(3) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること(障害者の誘導や介助を行う場合を除く。)

(4) 大会開催中に大きな声で会話、応援等しないこと。

(5) 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。

(6) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

(7) 来場者は行動履歴書を記載し、感染者発覚の際は濃厚接触者特定のために必要となる場合もあるため、大会終了後も1ヶ月程度保管しておくこと。

(8) その他

(各競技の特性上注意することとして確認しておきたいことを記入する。)

NO.

行動履歴書

所属 () 氏名 ()

[]

No	月日	曜日	行先	滞在期間	接触者
1	月 日				
2	月 日				
3	月 日				
4	月 日				
5	月 日				
6	月 日				
7	月 日				
8	月 日				
9	月 日				
10	月 日				
11	月 日				
12	月 日				
13	月 日				
14	月 日				

※ 罹患者が発生した場合、本人が発症2日前から現時点での行動歴を明らかにすることが重要です。試合に関わる全ての者は試合開催2週間前から記録をしておくこと。

※ 大会終了後、1ヶ月程度は各自で保管しておくこと。

行動履歴を記録する際の注意点について

濃厚接触者とは (定義：国立感染症研究所より)

患者の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者となる。

※感染可能期間とは、コロナウイルス感染症を疑う症状を呈した2日前から隔離開始までの期間

- ・患者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等）があった者
- ・適切な感染防護無しに患者を診察、看護もしくは介護していた者
- ・患者の気道分泌物もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・その他：手で触れることのできる距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策無しで、患者（確定例）と15分以上の接触があった者

（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）

感染拡大予防のための行動履歴書の記録について

PCR検査の結果、新型コロナウイルスの陽性結果が出たら、感染源や濃厚接触者を特定するためや今後の感染拡大防止対策に用いることを目的として保健所より過去2週間の行動履歴の聴き取り調査が行われる。関係者から得られる情報をもとに、新型コロナウイルスの潜伏期間、一般的な感染経路などについて詳しく調査する。また、調査の結果得られた情報を今後の適切な治療や効果的な感染拡大防止対策につなげていく。また、誰もが感染者の濃厚接触者になる可能性があるが、そのようなときにも、早く正確な確認ができるよう、何月何日どこへ行ったか、どんな人に会ったかなどを記録しておくことが重要となる。

（参考）濃厚接触者か、そうでないかを分けるポイントは？

- ①会話の長さ ②接触時間の長さ ③相手との距離 ④相手の症状 ⑤マスクを着けているか
 - ⑥ウイルスがついたものに触っていないか ⑦手指消毒等感染予防策を取っていたか
 - ⑧部屋の広さや換気状態
- これらから総合的に判断することになります。

記入例

[①学校 ②毎日の通学手段 ③塾 ④〇〇書店 ⑤(普段の生活で利用する場所等設定)]

No	月日	曜日	行先	滞在期間	接触者
1	7月10日	金	①②③	①10h②40m ③2h	※ 保健所等の聴き取り調査に対応できるように記録を残す(家族、クラス、部活等日常的に接点があり、すぐに特定できる人は除いてもよい)。 ※ 濃厚接触者の定義を参考に(1mかつ15分以上等)。
2	7月11日	土	・試合(〇〇高校) ・アストラムライン ・美容院 ④〇〇書店	・4h ・40m ・1h ④30m	

あくまでメモとして、自分でわかるように記録しておく

◎Jリーグ、プロ野球等で実際に起こった、濃厚接触者選定に関する事案

プロスポーツにおいて、チーム内で感染者が出た際、濃厚接触者に含まれなかった選手やスタッフから陽性者が複数出たことにより、感染範囲の特定が困難となりチーム全体の活動が停止となった例が報告されています。部内で感染者が出た場合の聴取等において、陽性者との接触の度合いの申告には、ご注意ください。

同意書

広島県高等学校体育連盟 ならびに

学校名

校長名 様

私は広島県高等学校体育連盟主催

.....大会.....競技

に参加するにあたり、健康上の問題はありません。

また、同大会の開催要項、広島県高等学校体育連盟感染拡大予防ガイドラインに従い同大会に参加することを同意します。

令和2年 月 日

参加者名

保護者名 印